

第2回小学校給食・食育推進委員会 議事要旨

1. 推進委員会（第2回）の概要

- (1) 開催日時：平成28年9月8日（木）15：00～17：00
- (2) 開催場所：神戸市総合教育センター705号室
- (3) 出席者：西村、湯田、安東、西川、グスマン、宮地、谷、市原、川田、馳川、寺西、松原各委員、矢羽野、大西、小西各オブザーバー

2. 議題

- (1) 第1回小学校給食・食育推進委員会議事要旨の確認
- (2) 検討にあたって留意すべき事項
- (3) 神戸市学校給食の充実に向けた方針（案）
- (4) 給食費の見直し
- (5) 意見交換

3. 議事要旨

第2回は学校給食及び給食費の実態について忌憚のない意見を伺うため非公開とし、川田座長の進行により、各委員に意見をいただいた。

議題1 第1回小学校給食・食育推進委員会議事要旨の確認

→内容について確認し、修正事項はなかった。

議題2 検討にあたって留意する事項

- 主な意見は次のとおり。（非公開事由にかかる事項については一部内容を削除している）
- ・ライフスタイルの変化に伴い共食や内食の減少は我が家でも起きている。だからこそ給食に助けてもらう部分も大きいと他の保護者とも話が出ている。
 - ・（以前のように）祖父母がいる家庭なら、一緒に食べることもあったが、（孤食等食習慣の変化は）社会が変化したことによると思う。また（今の状況は）母親が忙しい時代の裏付けだとも思う。
 - ・食事のマナーや食育といった観点で、家庭で気を付けることや学校に対して求めることがあるのか意見交換したい。例えば、給食の後の歯磨き指導は、なかなか難しいが、近々、神戸市で歯科口腔条例が成立し、市民の責務として歯と口を守ることの必要性の規定もできる。保護者や学校から気をつけるところ、今後に向けて検討すべきことがあれば教えていただきたい。
 - ・幼稚園で歯磨きの習慣を身につけていたが、小学校では場所が足りないからと歯磨きをしなくなり、家でのしつけに苦労した。学校や教育委員会では山ほど課題があると思うが、保護者の力も借りて、みんなで力をあわせてやれることならぜひ歯磨きを可能にしたい。
 - ・PTAでも話題になっている。家庭の意向で給食後に歯を磨いている子もいるが、休み時間に他の子と一緒に活動ができなくなるという問題はある。
 - ・歯磨き週間や強化月間のような時間を取り磨いていた学校もある。保護者の意見を聞き、歯磨きの時間を入れたいという気持ちはある。しかし、昼休みは委員会活動や係活動もあり、遊ぶ時間の確保もしたい。何を大切にしていくなのか悩むところである。

- ・小規模や歴史的沿革で歯磨きをしている学校もあるが、大変な労力がかかる。洗い場など物理的な問題もあり、大規模な学校では難しい。昼休みは委員会活動や児童間の交流など他にも大切な様々なことがある。
- ・私たちは朝昼晩歯を磨けと教えられた。歯磨きは、歯を大切に作る、長い人生できちんとしようという教えや健全育成に繋がるものなのに時間が取れないと置き去られているなら、市で変えてもらわなければならないと思う。マウスウォッシュだけでも、親はさせてもらったほうが良いと思う。
- ・歯磨きは健康教育の観点から大事なことであり、各学校で取り組んでいく方向性の話と、各家庭に対し発信したり、PTA でお願ひしたりするところもあると思う。
- ・神戸市は学校差があるにしろ、体力がさほど高い地域ではない。子供達のカルシウムやビタミンは足りているのかなど体力の低下などへの影響も食教育の中でみていく必要がある。

議題3 神戸市学校給食の充実に向けた方針（案）

→主な意見は次のとおり。

- ・資料5の具体的な方策の説明を聞いて、懐かしいというか、従来通りの献立で自然な感じを持った。
- ・給食の内容は、「給食」が食に関する正しい知識を身につける教材であるということと矛盾しないようにすべきである。給食は食べるだけでなく、コミュニケーションをとる、意見交換ができるなど食育という社会的な勉強になり、また子供達の様子も聞けるものである。その時間を守っていきたい。
- ・牛乳だけでなく、水も飲みましょうということや、豪華な食材や野菜にもそれぞれの役割があるということ、デザートなど甘いものも脳に糖分を与えてお昼からの勉強がはかどるなどの役割があるといった子供達に身に着けさせる正しい知識や望ましい食習慣が何かということを改めて考えていかないといけない。
- ・学生同士が給食の思い出話ですごく盛り上がるというお話があったが、親世代はデザートを食べており、同じものを食べて親子間でも食の思い出の共有があればいいと思う。
- ・ファーストフード等で、単品を食べる傾向になっているが、給食では三品献立等おかずがあって、食べる時間を共にする、共感する、というのが大事なことだと思う。デザートはいらぬという意見もあるが、同じような意味あいがあるので、どちらかというところと反対だ。
- ・デザートが出ると、子供達から歓声があがる。子供達の気持ちが高揚するのは、教育上、非常に大事なことだと思う。
- ・家に帰ってきて「今日はミルクが出てすごく嬉しかった」と話すと聞く。
- ・神戸の産業でスイーツがあるが、給食ではコスト等の面で難しいかもしれないが、デザートにちょっと凝ったことをして地域性を出すなど、特色づけをしてデザートがおいしかったという記憶を、子供達に残してやれたらと思う。
- ・神戸らしいデザートでは、神戸ワイン城で栽培したぶどうを使ったゼリーがある。栄養教諭で献立の原案を作成しているが、給食からははずせないということで1回だけだが10月の献立に入れた。
- ・うちには7学年隔てた兄弟がいるが、デザートの回数でここまで差が出るとかわいそうだと思う。

- ・子供達が将来、社会に出ていろいろな人と話すときに、神戸の給食にデザートでこんなものが出たとか、そんな話ができたらよいと思う。
- ・給食の良さとか意義を訴えられたらと思う。
- ・努力しているのはわかるが、保護者に対しては、食材費が足りないから上げるだけでは理解されないの、給食費を上げざるを得ない状況や教育を向上させるためだという明確なものを示したうえで、子供を育てるためにやるんだと謳ってもらうのが一番だ。子供達が喜ぶために、神戸としての給食の在り方を検討してもらい、一生懸命話をしてもらうのが一番ありがたい。今日はいいお話ばかりで何も文句がない。
- ・給食は単にお腹を膨らましたり栄養をとったりするだけのものではなく、子供同士、家に帰っての父母とのコミュニケーションの1つのツールであり、食育に不可欠なものとして意義を捉えるべきであり、そういう意味での給食が結果として給食費の改定に結びつくということだと思う。
- ・資料5の「2. 給食の内容の充実（案）」は、いい方針だと思う。（4）で食習慣を身につける項目があるが、歯磨きの話と食事、給食が連動している。人間が育つには、他者に共感するという気持ちがすごく大事で、小さいときは共感する気持ちを持っているが、成長するにつれ、環境が影響し他者に共感しなくなる。子供が自立するには、「自分への信頼」と「他者への信頼」が必要といわれるが、給食は他者への信頼の基礎となる「他者共感」を育てるよい機会である。ご飯と一緒に食べるだけで仲良くなることがあり、学校給食をそういう時間にするには、給食を充実してそのためのツールに仕立てることは必要だと思う。

議題4 給食費の見直し

→主な意見は次のとおり。事務局から給食の充実内容について試算した場合1食あたり260円（月額4,400円 [+500円]）となることを補足説明。

[給食費の設定]

- ・現在233円で給食を食べているのが不思議なくらいだ。給食費は単なる食材費と考えるのではなく「安全」に対する費用と捉えるべきである。試算で説明のあった1食260円で本当に安全を考慮しつつ、充実した回数と内容の給食を提供できるのか。食育のほうも郷土の料理やお肉がだせるようになるのであれば、本当によいことだ。
(事務局) 給食食材は、食品選定で一定の基準を満たしたものに限定しているが、大量購入により安価に食材を調達できている。食材の質を維持しつつ内容を充実するとしても全実施回数の184回で平均するため、試算としてご説明したとおりとなる。
- ・毎月、献立作成の会議で2か月後の献立の積算ができており、(この金額でできているのは)間違いない。
- ・支援が必要なところは公的支援があるので、給食費の問題とは切り離して考えたらよいが、むしろ払わない人が問題だと思う。地域にもよると思うが、大多数の保護者が試算で説明があった月500円増と聞くと大きいと感じるのか。
- ・周囲の保護者達に聞くと、「5,000円までなら給食費があがっても、いいものをきちんと食べさせてもらえるほうがいい」と言われた。それぐらい保護者は給食に対する強い思いがあると思う。
- ・給食費をどこまであげてもよいかは地域にもよると思う。

- ・月 500 円の値上げに対して、どういう意見がでるのかは、後の話だが、今が最低で、やってももらわないといけない底にきていると思う。消費税改定時もあげてないので、給食費を上げざるを得ないというのは保護者の皆さんは分かっているだろう。

[給食費の見直し]

- ・資料 6 「給食費の改定方針（案）」で「年度間の給食内容の平準化を行う」というのは、大事なことだと思う。給食を食べる子供達に年度間で差が出てはいけない。何年か後も同じ内容で実施していくものだと思う。前回も同様の議論があったが、据置き期間が長かったことや消費税の改定でバランスがとれなくなっている。
- ・給食の内容と給食費は、リンクをしているのが大事である。定期的な給食費改定を基本とすることで平準化が図れるので食材を調達する立場からすると、非常にありがたい。
- ・3年～6年、できれば短い期間で、値上げをしなくても現状を検証する場があればよいと思う。
- ・食材の状況は推測できないので、給食費を据え置くことで子供達が犠牲になるのなら、上げる、上げないは別にしても毎年でも検討するべきではないかと思う。
- ・給食費を上げることにに対して否定的な意見は出ていないが、これまで10年間、なぜ給食費を上げられなかったのか、どんな事情があり中身を落とすだけになったのかは振り返っておく必要がある。
- ・食材というのは生き物で値段の上下があるため、余裕をもった給食費改定をお願いしたい。
- ・資料 4 の【児童の食生活の現状と課題（例）】の 4 の就学援助率で認定期間を短くしたことで数字が変わってしまったとあるが、実態はどういう傾向なのか教えていただきたい。（事務局）就学援助率は 20%近い割合で、下げどまっておき、神戸の状況としては非常に厳しい状況が継続している。
- ・公的制度でセーフティネットを作っているのも大丈夫だとは思いますが、就学援助率をみても給食費の値上げに関しては真剣に考えていかないといけないと思う。
金額については、1割を超える改定額は心理的にはコストが高いと思う。しかしながら、その内容が主食・牛乳の価格上昇によるものとそれに伴う副食のいびつな現状（参考資料 P18）を改善するためのものであり、安心・教育のために必要だということを事務局が保護者に対し説明責任を果たすのならば、27 円の改訂幅は許容範囲だと思う。
改定期間は、環境が激しく変わるので出来るだけ短く、しかし、効率性も考慮すると 2 年か 3 年に 1 度、変える・変えないは別として、対策を考えるという趣旨で検証するのが適切だと思う。
- ・給食や食育について学校と家庭の役割を峻別しておかないといけない。家庭と学校の役割分担を理解したうえで、例えば、歯磨きは家庭と学校がやれるところは一緒になってやればよいと思うし、給食も部分部分で一緒にできるものと考えべき。この委員会で金額だけを決めるのではなく、給食にまつわるものをどうまわしていくか関係者がそのシステムを共有する場として考えた方がよい。

議題 5 意見交換

→主な意見は関連する議題 2～4 の各項目欄に記載している。